

Frogs

Otton frog / *Babina subaspera* / Otton-gaeru / オットンガエル

奄美大島と加計呂麻島の上に生息する大型カエルの固有種。雌は雄より大きい、共に同じ色彩で背中には薄茶の斑紋があり、白い腹部と茶色い縞が後肢にある。主に森の中の溪流付近にあり、昆虫やカタツムリを食べる。通常のカエルは前脚に通常 4 本の指を持つが、オットンガエルは珍しい 5 本の指。指には鋭く尖った爪を隠しもち、雄が交尾の際に雌に捕まるため、よく傷跡を残す。また、雄は他の雄へ爪で攻撃することもあり、時々交尾中の相手への攻撃も観察されている。県の天然記念物とされ、森林伐採と外来種のマングースにより数が減り、絶滅危惧種と指定されていたが、近年数が増えている様子。名前の由来は奄美の方言で「大きい」という意味。

Amami Ishikawa frog / *Odorrana splendida* / Amami Ishikawa-gaeru / アマミイシカワガエル

鮮やかな色彩を持つ体長 9～12cm の珍しいカエルは日本一美しいカエルとされ、鮮やかな黄緑色の体に金と紫の斑点がでこぼこした背中や頭、脚にある。以前は沖縄本土のイシカワガエルと同類とされていたが、200 万年以上前に分岐したとされ、今では奄美大島のみで見られる。森の中の溪流付近に生息するが、つま先の吸盤を使い、木を登ることができる。昆虫、カタツムリやミミズを食し、森の源流の岩の隙間や地中に卵を産み、繁殖する。オタマジャクシである幼生期は 2 年ほど過ごし、孵化した場所から 90m も移動することができる。アマミイシカワガエルは今絶滅危惧種と指定されており、県の天然記念物でもある。